

「生きる力」で励まし合い

台風が近づくとつれて京都府北中部でも記録的な大雨となり、由良川の水位が上がりはじめ、由良川沿いの道路にも水があふれだしてしましました。

福井県から旅行帰りの小島さんたちを乗せた観光バスは、舞鶴市の国道175号で由良川のはん濫で道路が浸水し、前に進めなくなったのです。前も後ろも車があり、みんな立ち往生して、どうすることもできないまま、川の水がどんどん増え、とうとうバスの中にも水が入ってきたそうです。



バスの乗客のみなさんにお話を聞きました

点滅する明かりが希望の光

道路に水があふれてバスが動けなくなりました。水の量は増える一方。「バスの屋根に避難するしかない」と、カーテンを細長く裂いてロープ代わりにし、みんなで協力して避難を始め、全員がバスの屋根の上に避難してからは、輪になって励まし合いました。

それでもまだ水は増える一方で、バスの屋根の上でひざの上まで水位が上がってきたのです。緊張と疲労の中、体を寄せ合い元気を出すために歌を歌いながら夜を過ごしました。暗闇で海鳴りのような音が聞こえる激流の中、バスが大きくゆれるたびに不安が広がりました。長く苦しい時間が過ぎ、明け方、ようやく水位が下がり始め、救助隊が見えたときはほっとして胸がいっぱいになりました。



バスの乗客(手前左から)小島唯美さん、宮崎典之さん、小林豊子さん(後列左から)守口卓三さん、西村勉さん

バスの屋根に避難した乗客を救助するヘリコプター
▼(読売新聞社提供)



「上を向いて歩こう」歌い励まし合った10時間

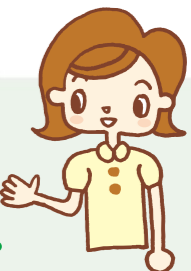
死者66人 不明20人に

舞鶴でバス水没、37人救助

台風23号の被害
死者66人 不明20人
救助37人

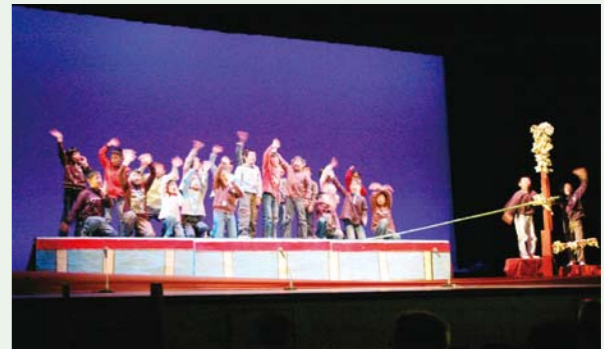
▲由良川で水没したバスのことは、新聞やテレビで大きく報道されました(平成16年10月21日 毎日新聞朝刊) 毎日新聞社提供

友達がこのお話を劇にしたんだ



宮津市立由良小学校5年生のみんなは、平成19年11月、このできごとを劇にとりあげ「バスの屋根の上で」として発表しました。

みんなは、乗客の一人中島明子さんから当時の様子を聞いたり、バスが水没した場所にも行って見ました。「劇づくりを通じて、子どもたちは命の大切さ、人の絆、災害を乗り越える英知のすばらしさを学んでくれました」と校長先生は語っていただきました。



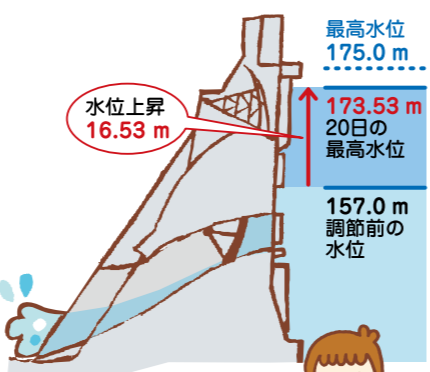
京都新聞社提供

大野ダムの洪水調節

由良川の上流にある大野ダムでは、上流で降った猛烈な雨でダム湖の水位が上昇し、数時間後にはダムに貯められる最高水位を超えることが予想されました。しかし、下流でバスが孤立していることがわかったため人命を最優先に考え、関係機関と連携し、限界ぎりぎりまで洪水をダムに貯めて、放流量を抑えるという調節を行いました。



洪水を貯めた大野ダム



洪水をぎりぎりまで貯めました。

